

報道各位

2012.10.26
No. 121001

麹菌発酵大豆胚芽における乳がん・前立腺がん細胞増殖への抑制効果を確認

—第19回日本未病システム学会にて発表—

ニチモウバイオティックス株式会社
代表取締役社長 石井 知見

ニチモウバイオティックス株式会社（本社：東京都品川区。ニチモウ(株)100%子会社）は、健康食品メーカーとして麹菌発酵大豆並びにイソフラボンに特化した研究と開発を積み重ねています。独自開発で日米欧製造特許を取得した発酵素材製造方法によって、世界にただ一つの極めて抗酸化力の高いアグリコン型イソフラボンを市場に供給しています。また、国内外多くの著名な大学と共同研究を行い、豊富なエビデンスを蓄積しています。

このたび、麹菌発酵大豆胚芽を用いて、ホルモン感受性とホルモン非感受性の乳がん細胞および前立腺がん細胞の増殖を遅らせることが確認され、第19回日本未病システム学会（10月27～28日、金沢）において研究発表を予定していますので、お知らせいたします。

今回の発表骨子は、下記のとおりです。

記



【発表演題】

「大豆胚芽素材の麹菌発酵による機能性向上」

発表者：潘 偉軍（ニチモウバイオティックス株式会社、ハーバード大学医学部）

【目的】日本が世界一の長寿国である“秘密”は日本の食文化にある事は論を待たない。疫学調査では、主食の米飯に加えて、魚、大豆、野菜や海藻など伝統的な食材から紡ぎだされる、様々な副菜が乳がん、前立腺がんや心臓疾患などの発症率や死亡率の低下に関与していることが示唆されている。その中でも、大豆イソフラボンを含む多種多様な大豆由来食品、特に麹菌による発酵食品が日常的に摂取されていることは、欧米人に比べて日本人の乳がん、前立腺がん及び心臓疾患などの発症率や死亡率を低減させていることが知られている。また、2003年には、閉経後女性の乳がん発症率と大豆製品の摂取との関係において大規模な疫学調査が国立がんセンター研究所によって行われ、その結果によると、毎日味噌汁3杯以上摂取した女性の乳がん発症率は統計的に有意な低減があり、大豆イソフラボンの1日摂取量が最も多い群でも統計的に有意な低減が認められた。今回我々は麹菌発酵による機能性向上を確認するため、生大豆胚芽および発酵大豆胚芽の抽出物を用いて、ホルモン感受性とホルモン非感受性乳がん細胞および前立腺がん細胞の増殖抑制効果について、*in vitro* で検討した。

【方法】 生大豆胚芽および発酵大豆胚芽をエタノールで抽出させ、ホルモン感受性とホルモン非感受性の乳がん細胞および前立腺がん細胞を用い、24穴プレートにそれぞれのがん細胞に0.5mg/mL、1.0mg/mLの抽出物を投与し72時間培養したうえで、生大豆胚芽および発酵大豆胚芽の抽出物のがん細胞増殖の比較試験を行った。

【成績】 発酵大豆胚芽の抽出物がホルモン感受性とホルモン非感受性の乳がん細胞および前立腺がん細胞の増殖を用量依存的に有意に抑制したことが明らかとなった。生大豆胚芽の抽出物は、上記の抑制効果が認められなかった。

【結論】 以上の結果により、大豆胚芽を麹菌で発酵させることにより、菌代謝産物や大豆分解物がその機能性や付加価値を高め、がんの予防に有効であることが示唆された。サプリメントなどに加工され、代替医療に幅広く活用されることで、我々の健康維持に寄与することが期待される。

【お問合せ先】 ニチモウバイオティックス（株）営業部（03-3458-3510）までご連絡ください。